

MF 通信

2016年11月発行

リーグ 特集号

⑤

2016年11月5日〔土曜日〕

西南学院大戦直前特集

念願の初勝利。

打倒・西南に全てを懸ける。

10月22日(土)平和台陸上競技場にて行われた試合は28対14で久留米大学が今期初勝利。1勝3敗と負け越しているが、リーグ戦ラストは勝利で締めくりたい。次戦は優勝を決めた西南学院大学との試合だ。「勝って西南の胸上げを阻止しよう。」と選手・スタッフが合言葉のように飛び交う。王者に臆することなくミーティングらしい戦いで勝利を期待する。



林田 征大 (DL) × 溝上 晃将 (WR)

四回生 主将

四回生 副主将

チームを支えた二人。最後の決意。今年のミーティングの象徴である主将の林田はチーム内で誰よりも厳しく、誰よりも苦しんだ。本気でやらない者には激を飛ばし、良いプレーが出るとしつかり褒める。だから誰もが慕う。キャプテンの名に相応しい人物だ。対して副将の溝上は寡黙。弱音は吐かず、ただひたすらプレーに打ち込む、背中で引く張るリーダータイプだ。ミーティングの象徴である二人に西南学院大戦に向けたインタビューを行った。

Q. 次戦、結果次第では最終戦となりますが、西南学院大戦の意気込みを教えてください。
林田「とにかく勝ちたいです。全員が一つになってプレーできれば勝機は十分久留米にあります。」
溝上「4試合終わって良い内容のフットボールができていないので、とにかく良いパフォーマンス

をしたいです。」

Q. 今年一年のミーティングはどんなチームですか？
林田「目標の為に、全員が考えて行動するチームです。結果こそ出ていませんが、今年は一丸で戦っているチームだと思えます。」

溝上「どんな苦境でも諦めないチームだと思えます。目の前の1プレーに全力を注ぐ事がチームの最大の長所です。」

Q. 4年間アメフトを続けて色々な想い事があつたと思います。アメフトを通じて学んだ事はありますか？
林田「常にチャレンジする事の大切さです。やらなければ何も始まらないし、思ったことを行動にしないとつたいな

いと思えるようになりました。先輩たちにも残された期間で伝えていきたいです。」

溝上「忍耐・我慢です。継続することの大切さをミーティングで学びました。しんどいときも顔に出さずにポジティブにやれば、必ず努力は報われると思

います。」
Q. 最後に先輩たちに伝えたい事はありますか？
林田「決めた目標を曲げず、最後まで突き通して欲しいです。そして来年こそは甲子園ボウルに一步でも近づく事ができるよう努力することを楽しんで下さい。」

溝上「フットボールはきついなと思う事や辛い事があると思いますが、勝利すればそれが全て報われるスポーツです。仲間を信じて自分たちの成し遂げられなかった目標を必ず達成して下さい。」

林田は来年Xリーグに舞台を移し、さらなる挑戦を続ける。高いレベルで自身がどこまでできるか試してみたい。また得たスキルを先輩に還元したいと語る。溝上は地元

の銀行に勤め、時間があれば積極的にOBとして先輩を指導していきたいと目を輝かせる。

スポーツは結果が全てとよく耳にするが、この二人の功労者ならびに四回生には結果以上の大きな財産を教えてもらったと強く感じる。次戦勝利し、苦しんだリーグを笑顔で締めくりたい。

顔を締めくりたい。

秋季リーグ第四節の結果

10月22日(土) @平和台陸上競技場
久留米大学 (1勝3敗) ○28対14 ●福岡教育大学 (1勝3敗)
西南学院大学 (4勝0敗) ○34対10 ●福岡大学 (3勝1敗)
10月23日(日) @田尻グリーンフィールド
九州大学 (2勝2敗) ○36対6 ●琉球大学 (1勝3敗)

次戦のみどころ

西南学院大学はアスリート揃ったバックス陣と重量のあるラインが揃い隙はない。また、こ一番で競り勝つ勝負強さも兼ね備え、ゲーム巧者でもある。久留米大学が勝利する為の鍵はタイムコントロールであろう。ディフェンスはターンオーバーの数を増やし、少しでも多く久留米の攻撃の回数を増やす事。オフフェンスは時間を稼ぎながら小刻みにゲインし、タッチダウンにつなげる事が重要である。勝てば最終戦。久留米大学の底力に期待したい。